

発掘からみる土佐の歴史

# 田村遺跡群



2005.3

高知県教育委員会

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県は、東の室戸岬から西の足摺岬にかけて東西に長く、四万十川や仁淀川、物部川などの河川が北の四国山地から南の太平洋へと流れており、豊かな自然が残されています。そこには、自然とともに生きた私たちの祖先の暮らしの跡が遺跡として数多く発見されています。

今回、調査された田村遺跡群は弥生時代と中世を中心とする遺跡ですが、県内では旧石器時代から近世までの各時代の遺跡の発掘調査が行われています。



高知城跡と伝下屋敷跡

## 中世

中世には田村城館跡を中心に、田村遺跡群では環濠屋敷群が多数発見されました。また、県内各地の発掘調査でも屋敷跡や墓跡が発掘されています。



田村遺跡群環濠屋敷



1



中世の出土遺物

## 旧石器時代

奥谷南遺跡は大きな岩陰遺跡であり、ナイフ形石器や細石刃など多くの石器が出土した旧石器時代の代表的な遺跡です。



出土した細石刃と細石核



## 近世

近世の調査では高知城下で伝下屋敷跡の発掘が行われ、陶磁器や木製品など江戸時代の暮らしを見ることができる資料が発見されました。



下ノ坪遺跡  
古代建物群

# 発掘調査からみえる高知の歴史 《旧石器から近世まで》

## 縄文時代

縄文時代では国史跡の不動ガ岩屋洞窟遺跡や宿毛貝塚をはじめとし、四万十川流域を中心に数多くの遺跡が発見されていますが、吉野川流域の松ノ木遺跡や田村遺跡群でも縄文時代後期の土器や石器が出土しています。



松ノ木遺跡の  
縄文土器



縄文時代後期の宿毛貝塚

## 弥生時代

弥生時代は田村遺跡群や入田遺跡から始まり、高知平野を中心に数多くの村が誕生しますが、後期後半になると田村遺跡群は廃絶し、ひびのき遺跡や東崎遺跡などの新しい村が周辺部に広がります。



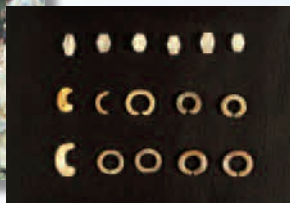
田村遺跡群竪穴住居跡

## 古墳時代

古墳時代前期の前方後円墳は確認されていませんが、後期には高知平野を中心に横穴式石室を持つ古墳が多く築かれ、小蓮古墳、朝倉古墳、明見彦山古墳など巨大な石室を持つ古墳も見られます。



小蓮古墳



大谷古墳出土遺物



弥生土器の出土状態

## 古代

古代の遺跡は土佐国府跡、土佐国分寺跡、比江廃寺跡などの官衙や寺院以外にも田村遺跡群で発掘されたような掘建柱建物群が各地で発見されています。



比江廃寺跡の塔心礎



## 2

## 田村遺跡群の位置と地形



田村遺跡群は高知県の中央部に広がる高知平野に位置しています。高知平野の中でも物部川によって形成された平野部は香長平野と呼ばれ、県内最大の水田地帯となっています。

田村遺跡群の立地は物部川の河口近くの自然堤防上ですが、現状では水田地帯なのでほとんどわずかな高低差しかありません。

高知空港は太平洋戦争の末期に造られた飛行場であり、戦後は旅客航空の空港として整備されてきました。高知空港の2回の滑走路拡張に伴い田村遺跡群の発掘調査が行われ多くの発見がありましたが、今、遺跡は滑走路の下で再び長い眠りにについています。

## 高知空港と田村遺跡群の移り変わり



昭和 23 年航空写真



昭和 50 年航空写真



物部川は、今では香長平野の東端を一本の流路となっていますが、江戸時代に野中兼山により治水工事が行われるまでは、土佐山田町から平野部に流れ出た物部川は幾筋かの流路に分かれて西南方向へ流れており、氾濫を繰り返すごとにその川筋をかえていました。今でも航空写真や地図をみると、古物部川の流れの跡を水田の区画や用水路などに見ることができます。

田村遺跡群の調査でもこのような古物部川の流路の一つを発掘することができました。



第1次拡張の高知空港（平成8年）



平成4年航空写真



平成13年航空写真

田村遺跡群の発掘調査は昭和55年からの第1次空港拡張整備事業に伴い行われましたが、それ以前にも西見当遺跡などの調査が行われています。これらの調査は、弥生時代前期の土器が田村見当、西見当などの水田で発見されるのを知った岡本健児氏により行われたものであり、西見当遺跡での前期環濠の確認や銅鐸の舌の発見など大きな成果がありました。また弥生時代前期の土器として西見当式の型式名が付けられ、高知県を代表する弥生遺跡となりましたが、その後、空港拡張に伴う調査まで大規模な調査は行われていませんでした。

最初の高知空港拡張の拡張が計画された時点では、西見当遺跡などの南側が拡張範囲であったことから大規模な発掘調査はあまり考えられていませんでしたが、実際に調査に着手してみると、空港拡張範囲全域に弥生時代から中世の遺構や遺物の広がり確認され、高知県では初めての大規模発掘調査が行われることとなりました。



西見当遺跡の発掘調査(昭和38年)



第1次調査 弥生時代前期初頭の竪穴住居跡(昭和56年)



## 西見当遺跡から田村遺跡群

発掘調査の結果、これまで知られていなかった弥生時代最初の集落や水田跡が発見され、西見当式土器をさかのぼる最古の弥生土器も確認されました。また、中期から後期にかけての集落跡も西端部で見つけることができ、田村の弥生集落は大きな規模を持つことが判明しました。

さらに、中世では溝に囲まれた屋敷跡が31カ所調査され、石組みの井戸や建物跡が多数発見されました。そして田村城館の西と南の濠も確認され、田村城館を中心とする土佐の中世の姿が浮かびあがってきました。



進入灯部分の発掘調査（昭和59年）



第1次発掘調査 中世の環濠屋敷跡（昭和57年）





表土を剥いて掘り下げます。

発掘調査は上から順番に土層を見ながら掘っていくことが大切です。土は下から上へと順番に堆積するので、下へ掘り進むほど古い時代へとさかのぼって行くことになります。また、土器や石器がどのような状態で出土するのも重要な資料となるので、すぐには取り上げず、周りも掘り下げ、写真撮影や測量を行います。

掘り終わった遺構も写真撮影や測量を行い、記録を作成します。土器や石器は事務所へ持ち帰り、水洗、注記、接合、実測などの作業を行い、発掘調査報告書を作成します。



土の中から土器が出土



竪穴住居跡の発掘



掘りあがった2000年前の住居跡





# どうやって遺跡は発掘されるのでしょうか



記録を残すために測量します。



現地説明会も開かれ、多くの方々に見ていただくことができました。



掘り出された土器や石器の整理作業が行われます。



田村遺跡群などの展示会も開催されました。



## 5

## 田村の縄文時代

田村遺跡群は弥生時代と中世を中心とする遺跡ですが、縄文時代後期の土器や石器が第1次・第2次調査ともに拡張範囲の南部分を中心に発見されています。

これまで縄文時代の遺跡は、四万十川や吉野川などの山間部に位置しており、平野部分での発見はほとんどありませんでしたが、縄文時代後期には遺跡数も増加し、低地の平野部にも進出してきたようです。

出土した土器は磨消縄文や沈線で飾られた浅鉢や深鉢、注口土器と文様のない煮炊き用の深鉢です。土器の文様からは九州との関連や瀬戸内・近畿との影響を見ることができ、縄文時代にも広域にわたる交流があったことが分かります。



前回の発掘調査で発見された縄文土器



縄文土器の出土状態

田村遺跡群の南端に広がる縄文時代後期の遺物包含層土器や打製石斧、石錘が集中して出土しています。



## 3500 年前の田村遺跡群

田村遺跡群では、縄文土器とともにたくさんの石器も出土しました。出土した石器には、石鏃や打製石斧、石錘などが見られます。石鏃は弓矢の矢じりであり狩猟の道具ですが、打製石斧は名前が石斧となっていますが磨いた刃はなく、荒く打ち欠いた石器であり、土掘り具として使われた道具のようです。縄文人たちは打製石斧で山芋や百合根などの地下茎を掘り出して食料にしていたと考えられます。また、石錘は網の錘であり、大型の石錘は海用として用いられ、やや小型の石錘は物部川など河川での漁労に使用されたようであり、狩猟や植物採集だけではなく漁労も盛んに行われていたようです。

このように、田村遺跡群の歴史は縄文時代から始まり、その後も弥生時代から中世に高知県の中心地域となって現代へと続いています。



磨消縄文土器



大型の深鉢



サヌカイト製の石鏃



打製石斧

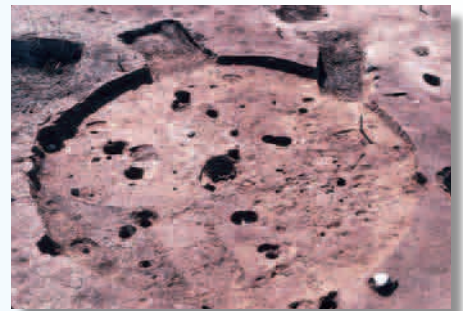


石錘

弥生時代では、前回の発掘調査で前期の最初の村が発見されました。この村は竪穴住居跡10棟と掘建柱建物跡15棟からなり、弧を描くように並んでいます。竪穴住居跡には円形と方形のものが見られ、小ピットを伴う中央ピットなどから朝鮮半島の松菊里遺跡で発見された住居跡に類似しています。また、掘建柱建物跡も高床倉庫と住居跡と考えられる建物があり、前期後半以降の住居跡とは大きな違いが見られます。

前期初頭の村はその後西見当へと移動し、環濠集落が営まれます。この環濠集落は西見当遺跡の発掘調査で確認されたものですが、その範囲は不明でした。前回の発掘調査でも、環濠の一部を確認しましたが、全体についてはまだ分かりませんでした。

今回の発掘調査では環濠集落の南半分を調査することができ、環濠も2重または3重になっていることが初めて確認されました。環濠の内外には多数の土坑が発見されましたが、竪穴住居跡は環濠外で検出され、環濠内では見つかることはできず、今後への課題となりました。



円形の竪穴住居跡



方形の竪穴住居跡



掘建柱建物跡と溝状土坑

円形と方形の竪穴住居跡と掘建柱建物跡が発見された弥生時代最初の村

## 弥生時代最初の村と水田

前期では集落以外に水田跡が発見されています。水田跡は最初の村と、西見当の環濠集落の中間の位置にあり、一辺が2~4m程度の小さな区画が244枚も確認されました。また、水田の中には足跡も残されており、農作業後に突然襲ってきた氾濫による砂でそのまま埋められ、現在まで残されてきたのと考えられます。

水田の畦には水口がなく、水は必要なときに畦越しに水を入れたと考えられ、畦も等高線に沿って築かれています。



弥生時代前期の環濠集落



弥生人の足跡

弥生時代前期の水田跡



弥生時代前期後半から中期前半にかけての集落は、今回の調査範囲の北側に移動していると考えられます。この時期の竪穴住居跡は少数しか確認されていませんが、流路、溝跡からは多量の土器が出土しており、北側に集落があることを示しています。

また、前回拡張時の周辺整備事業による調査でも、北側 300m ほどの範囲では土坑や住居跡の一部が発見されており、集落の広がりが確認されています。

中期後半から後期前半にかけて集落は再び南下し、今回の拡張範囲内で集落全体の発掘調査を行うことができました。この時期の竪穴住居跡は約 300 棟ほどであり、田村遺跡群の最盛期にあたる時期となっています。住居跡は集落内に掘られた弧状の溝に沿うように集中して発見されており、多いものでは 4 回前後の建て替えを行っています。また、大型の住居跡は直径 8m 以上あり、鉄器やガラス小玉などの遺物も豊富に出土しており、集落の有力者が複数存在していたと考えられます。

掘建柱建物跡も多数確認されましたが、特徴的に溝状の土坑を伴っており、弥生時代前期からの継続性が見られます。また、南半部には柱を建てる柱穴が 1 辺 2m ほどの大型掘建柱建物跡が 2 棟存在しており、太い柱を持つ特殊な建物が存在していたようです。



発掘される竪穴住居跡

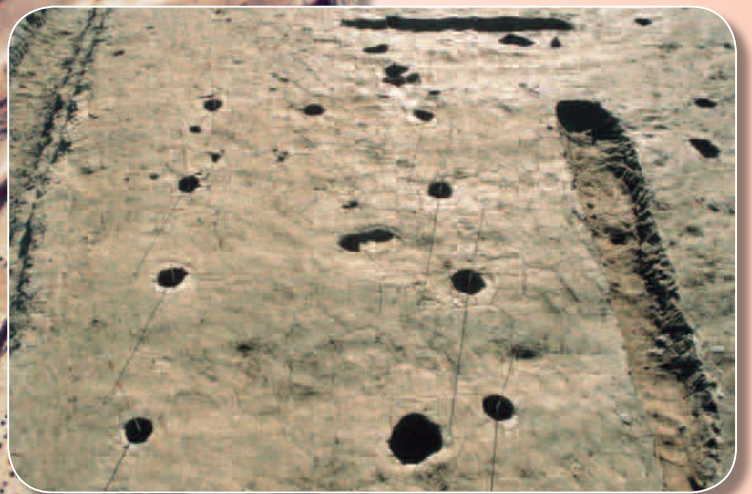


## 高知県最大の集落

後期後半になると、突然、竪穴住居跡や掘建柱建物跡がなくなり、集落は完全に廃絶してしまいます。弥生時代の初めから後期前半まで継続してきた田村遺跡群にも最後が訪れ、これまでの中心的集落の役割を終えると同時に弥生社会は新たな発展に向けての新しい集落を創り出すこととなります。



土器と炭化米が出土した土坑



掘建柱建物跡と溝状土坑

重なり合うたくさんの竪穴住居跡



弥生時代の住まいは竪穴住居が最も一般的であったと考えられ、田村遺跡群でも全体では竪穴住居跡が400棟以上発見されています。しかし掘建柱建物跡も存在しており、高床倉庫とともに平地式の掘建柱建物による住居の存在も同時にあったものと考えなければなりません。

竪穴住居跡には直径8m以上の大型住居と4~8mの中型住居、さらに直径4m未満の小型の住居も発見されており、小型の住居は工房として使用されていた可能性も考えられます。また、大型住居跡からはガラス小玉などの装飾品や鉄器などの最新技術による道具が多く出土しており、有力者の存在が考えられます。



どんな家に住んでいたか想像してみよう。



焼け落ちた住居跡



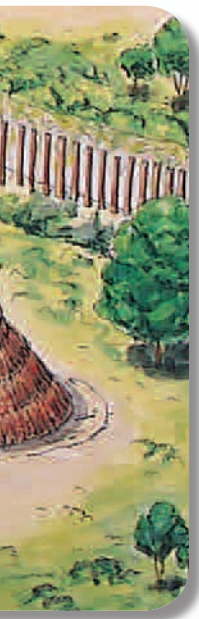
壺がそのまま置かれた住居跡（復元）



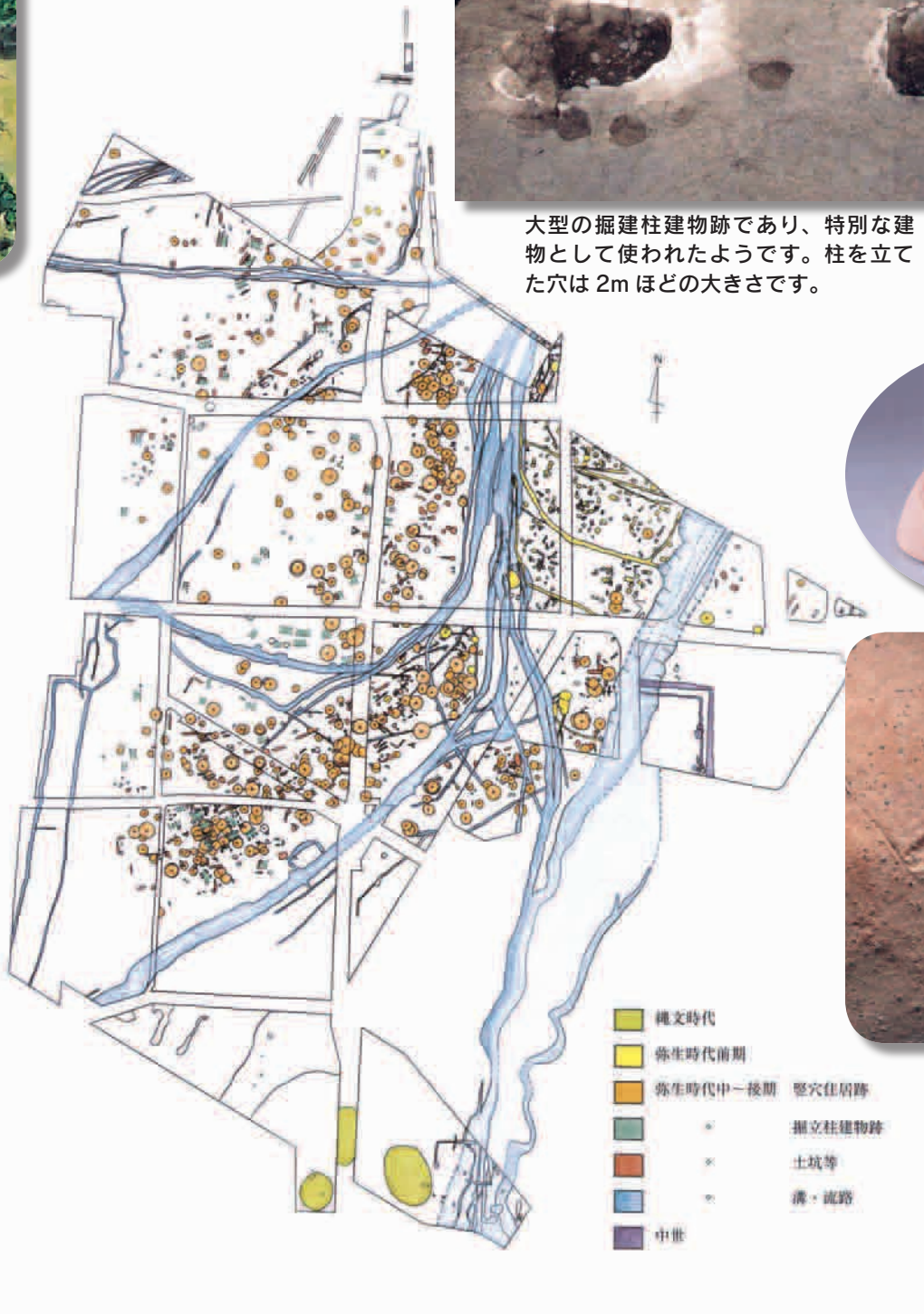
竪穴住居跡に寝てみよう。



# 村にはどんな建物が建っていたのだろう



大型の掘建柱建物跡であり、特別な建物として使われたようです。柱を立てた穴は2mほどの大きさです。



土器に描かれた建物跡。よく見ると屋根の棟に丸い装飾があります。

溝に沿ってたくさんの竪穴住居が建てられていました。

田村遺跡群では、前期の環濠集落の環濠を始めとし中期から後期の村にも多くの溝が掘られています。集落の東側を流れる大きな流路は集落の東を区切っており、環濠もこの流路に流れ込んでいました。流路の底には大きな穴が掘られ、底へ降りるための階段状の通路も作られており、深さから見れば井戸として使われていたと考えられます。

環濠は2重であり、部分的にはさらに外側にもう1本の溝が見られます。断面は内濠がU字形であるのに対し、外濠はすどいV字形をしており、防御のための濠であったことがわかります。

中期から後期の溝も集落内をやや弧を描きつつ西北から東南に曲がりながら延びており、竪穴住居跡自体も溝に沿って集中しています。



前期環濠集落のイラスト



弥生時代前期外環濠V字形の断面



弥生時代前期内環濠U字形の断面



弥生時代中～後期の集落の大溝

## たくさんの土器が出土した溝と穴

土坑は遺跡全体で3,000基ほど発見されていますが、弥生時代前期では環濠集落の内外に見られる貯蔵穴が中心であり、円形、楕円形、方形などの形が見られ、深いものは1m以上の深さが残されています。

まず、中期から後期にかけては掘建柱建物に伴う溝状の土坑が特徴的であり、やはり多量の土器が出土しています。



前期の貯蔵穴



土坑からの土器出土状態



出土した壺と甕

集落の中から土器がまとまって捨てられている箇所が発掘されました。積み重なっている土器は、お祭り（祭祀）などに使われたものではないかと考えられています。



土器の集中出



土器集中地点から出土した壺や甕



18

弥生時代に使われた道具は色々ありますが、田村遺跡群では土器や石器、鉄器、ガラス製品などが出土し、木器や繊維などは腐り、残っていませんでした。発掘調査で最も多く出土する土器からは、その形や文様などによって使われた時代や用途も分かりますし、どんな遺構からどのような土器が出土するかなどによって、竪穴住居跡の時期や土坑の性格なども推測することができます。また、弥生土器は壺、甕、高杯の基本的な種類があり、壺は貯蔵、甕は煮炊き、高杯はお祭りなどの時にものを盛るための容器です。

### 弥生時代前期の土器

最初の弥生土器は縄文土器の形や文様を残していますが、壺、甕、高杯の3種類の形を持っています。その後西日本に広がった土器（遠賀川式土器）はどこでも同じような形をしており、西見当式土器も同じ土器です。



弥生時代前期の土器



弥生時代中期の土器

### 弥生時代中期の土器

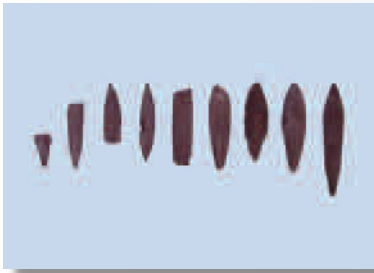
前期では各地で同じような形の土器が作られましたが、弥生文化が発展するにつれて、中期になるとそれぞれの地域で特徴的な形や文様を持つ土器が焼かれ地域色が豊かになります。

### 弥生時代後期の土器

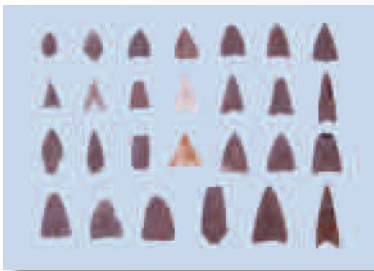
後期になると再び全国的に同じような土器が作られるようになり、文様もほとんどなく、機能的な形となります。弥生時代の終わりには、次の古墳時代へと連続的に続く土器となり、土師器へ移っていきます。



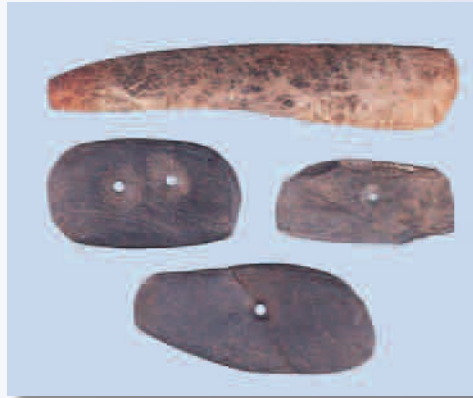
弥生時代後期の土器



前期の磨製石鏃（黒色頁岩）



中後期の石鏃（サヌカイト）



前期の石鏃と石包丁



中後期の石斧



稲刈りの風景イラスト

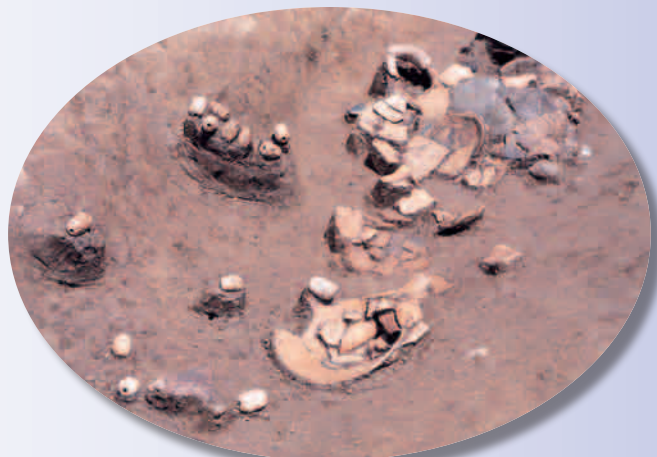
### 弥生時代の石器

弥生時代には稲作が行われたので縄文時代には見られなかった石包丁（稲の穂刈具）がたくさん作られます。また、石斧は太形蛤刃石斧と呼ばれる両刃の大型石斧も多く出土しますが、木を切って木製の鋤や鍬などの農耕具を多量に製作していたようです。石鏃も数多く発見されていますが、1個の重さが非常に重くなっており、縄文時代と違い、戦いの武器として本格的に使われたものと考えられています。

これらの石器の中で石斧は緑色岩類、石包丁は黒色頁岩で作られており、物部川の川原石の中で見つられますが、石鏃は遠く香川県の五色台のサヌカイトが使われており、盛んな交流があったことが分かりました。



竪穴住居跡から出土した石包丁



前期の外濠で発見された土錘



### 金属の道具

弥生時代には土器と石器以外にも青銅器や鉄器、ガラス製品などが使われています。弥生時代後期になると鉄器では鉄斧や鉄鎌などの生活道具や鉄鏃が出現し、石器の量は急激に少なくなります。しかし、鉄器は当時としては貴重品であり、何度も溶かして再生して使用するため、出土する鉄器はあまり多くありません。

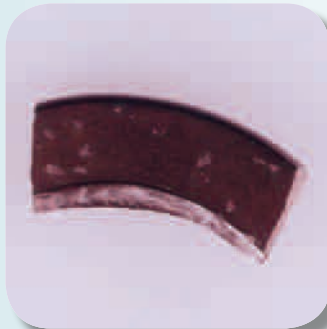
また、青銅器は銅鐸、銅矛、銅剣などのお祭りの道具に使われ、田村遺跡群では明治時代に5本の銅矛が発見されており、今回の調査でも1本の銅矛が出土しました。銅矛以外にも銅鐸の舌、銅鏡片（中国製）や有鉤銅釧（貝輪を原型とする腕輪）なども出土しており、いろいろなお祭りの道具や装身具が見られます。



鉄の道具《鉄斧》



今回出土した銅釧片



今回出土した青銅鏡片



第1次調査で出土した青銅鏡片



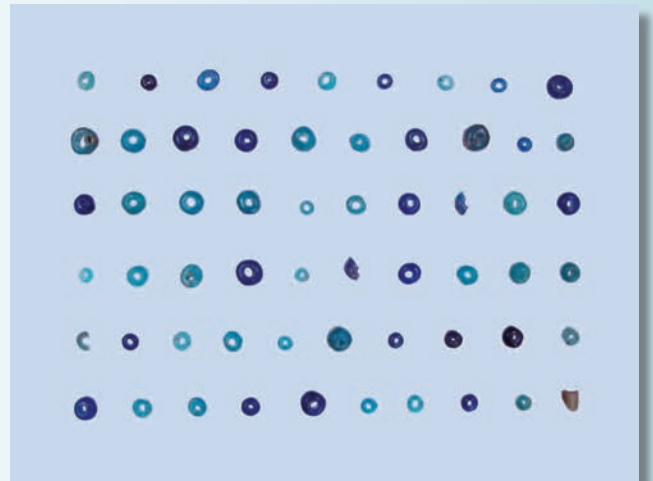
出土した中広形銅矛（右）とカリヤ出土（明治32年）の広形銅矛5本の内の1本（左）

竪穴住居跡からはガラス小玉や勾玉、碧玉製の管玉や勾玉などの装身具が出土しています。特に大型の住居跡からはガラス小玉などが多く出土しているので、これらの装身具を身に付けていた人々は集落の中でも有力者と考えられます。これらの装身具は美しく飾るためではなく、有力者の力を現すものとしての価値が大きく、女性ばかりではなく男性も身に付けていたのでしょう。

銅鐸や銅矛などを使った農耕の祭りや村の祭りなどいろいろな祭祀が行われる中でガラス玉などを身につけた有力者も出現し、新たな社会へと発展しますが、日常的な祭祀も行われたと考えられ、人面動物形土製品などもこのために作られたものと考えられます。



ガラス製勾玉



ガラス小玉



ガラス小玉と勾玉の首飾り（復元）



人面動物形土製品



田村遺跡群は弥生時代後期後半に廃絶し、古墳時代以降人々の暮らした跡はなくなりますが、古代になると立派な建物跡が発見されました。建物跡は掘建柱建物と呼ばれ、柱を建てるための穴を掘り、底に土台の根石を入れるなどしていますが、礎石ではないため柱根が腐るので一定期間たてば建て替えなければなりません。

田村遺跡群の建物跡は数棟がコの字形に配置されたものであり、大型の建物を中心に倉庫も伴う企画性の高い建物群です。このような配置や規模から一般の住居ではなく荘園（田村庄）の役所などの建物群と考えられます。

また、香長平野に広く見られる正方形の整った水田地割りは古代の条里地割りを継承しているのではないかと考えられ、古代の建物群もこの地割りに合わせて建てられています。さらに、今回の調査では現在の道路の下から古代の道跡ではないかと考えられる遺構も発見され、現在の水田地形自体が古代からの姿を残す遺跡と言えるでしょう



前回の調査で発見された古代の建物群で大型の掘建柱建物跡と倉庫群が見られます。

今回の調査で新たに発見された古代の建物群であり、前回の建物群と同様に1町四方の区画の中に配置され、水田地割りと同じ方向（東へ12°振っている）を持っています。







柱穴と底の根石



柱穴から出土した須恵器



蓋



坏



田村遺跡群の古代建物跡の配置

古代には南国市の北部、比江に土佐国府が置かれ、近くには土佐国分寺跡も残されており、土佐国の中心となっていました。中世になると再び田村の地に守護代細川氏の居館跡である田村城館が築かれ、中心となります。今回の調査では中世の遺構はあまり多くありませんでしたが、前回の調査では田村城館跡の南一帯に周りを溝で区画した屋敷跡が31カ所発見されています。

屋敷跡は1辺20~50mほどの大きさであり、中には主屋と考えられる建物跡を中心に数棟の掘建柱建物跡が配置されています。屋敷跡の中には深さ4mほどの石組みの井戸も掘られており、発掘中にも地下水が湧き出ていました。

屋敷群の時期は14世紀(守護代細川氏入国以前)、15世紀(守護代細川氏の時代)16世紀(細川氏退出以後の長曾我部・戦国時代)の3時期に大きく分けられ、中世の土佐の姿を見ることができます。



青磁出土状態



柱穴の土師質土器



方形の環濠屋敷跡



屋敷跡で発見された石組みの井戸

## 田村城館と環濠屋敷群

田村城館跡は歴史地理学により推定復元がされていましたが、発掘調査によって外堀の西と南が確認されました。また今回の調査でも西側に残されていた土塁の跡が再確認されました。堀のそこからは大永年間(1521~1527)のお札も出土し、細川氏の退出以後も田村城館が使われていたことが分かりました。しかし、田村城館跡の大半は空港拡張から外れ、残されていますので、今後の確認調査が期待されます。



城館跡の外濠・南西コーナー部



田村城館跡の推定範囲



堀跡から出土したお札等の遺物



田村城館跡の土塁調査

近世になると現在の高知市が高知城の城下町となり、田村の地は農村として現代までその姿を残します。発掘調査でも弥生時代や中世の遺構に混じり、近世の土坑や建物跡、お墓などが発見されています。また、能茶山焼などの土佐産の焼き物も出土し、近世研究の重要な資料となっています。

また、太平洋戦争時の防空壕の跡も見つかり、周辺に残されている掩体壕（飛行機の格納庫）などとともに戦争の歴史を伝える遺跡と言えるでしょう。



出土した江戸時代の染付



近世の土坑群



江戸時代のお墓



発掘された防空壕



水田に残された掩体壕

# 田村遺跡群の歴史の流れ

高知県の遺跡年表			
年代	時代	高知県の遺跡	日本の遺跡と出来事
約2～5万年前	旧石器時代	楠山遺跡・池ノ上遺跡（宿毛市） 奥谷南遺跡（南国市） 新改西谷遺跡（土佐山田町）	岩宿遺跡（群馬県） 日本で最初の旧石器を発見 翠鳥園遺跡（大阪府） 白滝遺跡（北海道）
13,000年前			
11,000年前	縄文時代	不動ヶ岩屋洞窟遺跡（佐川町） 十川駄場崎遺跡（十川村） 宮崎・大宮遺跡（西土佐村） 松ノ木遺跡（本山町） 宿毛貝塚（宿毛市） 田村遺跡群（南国市） 居徳遺跡群（土佐市） 中村貝塚（中村市）	縄文時代開始 上野原遺跡（鹿児島県） 上黒岩陰遺跡（愛媛県） 三内丸山遺跡（青森県） 縄文時代の大集落 尖石遺跡（長野県） 亀ヶ岡遺跡（青森県） 菜畑遺跡（佐賀県）水田発見
3,500年前			
2,500年前			
2,000年前	弥生時代	田村遺跡群（南国市） 入田遺跡（中村市） 下分東崎遺跡（香我美町） 天崎遺跡（土佐市）銅矛の発見 龍河洞洞穴遺跡（土佐山田町） 本村遺跡（野市町） 田村遺跡群（南国市） 西分増井遺跡（春野町） ひびのき遺跡（土佐山田町）	板付遺跡（福岡県） 池上曾根遺跡（大阪府） 加茂岩倉遺跡（島根県） 多量の銅鐸出土 吉野ヶ里遺跡（佐賀県） 巨大な環濠集落 登呂遺跡（静岡県） 妻木晩田遺跡（鳥取県） 纏向遺跡（奈良県）
1,800年前	古墳時代	高岡山古墳群（宿毛市） 具同中山遺跡群（中村市） 古津賀遺跡群（中村市） 伏原大塚古墳（土佐山田町） 小蓮古墳（南国市）	箸墓古墳（奈良県） 大山古墳（大阪府） 最大の前方後円墳 藤ノ木古墳（奈良県）
1,400年前	飛鳥時代	朝倉古墳（高知市） 秦泉寺廃寺跡（高知市） 比江廃寺跡（南国市）	大化の改新 高松塚古墳（奈良県）
1,300年前	奈良時代	土佐国府跡（南国市） 土佐国分寺跡（南国市）	飛鳥池遺跡（奈良県） 平城京 律令時代の開始
1,100年前	平安時代	下ノ坪遺跡（野市町） 田村遺跡群（南国市）	平安京 紀貫之 土佐国司となり土佐日記を著す
700年前	鎌倉時代	林口遺跡（土佐市）	鎌倉幕府の成立 中世の始まり 草戸千軒遺跡（広島県）
600年前	室町時代	木塚城跡（春野町） 姫野々城跡（旧葉山村） 田村城館（南国市） 田村遺跡群（南国市）	室町幕府 細川氏守護代となり入国 戦国時代
500年前	安土・桃山時代	岡豊城跡（南国市） 浦戸城跡（高知市）	長曾我部氏の土佐統一 豊臣秀吉の朝鮮出兵
400年前	江戸時代	高知城跡（高知市） 高知城伝下屋敷跡（高知市） 小籠遺跡（南国市） 鹿持雅澄邸跡（高知市）	江戸幕府
160年前 60年前	近・現代	陣山遺跡（南国市） 掩体壕（南国市）	明治維新 太平洋戦争



